

# 所得稅法中改正法律案特別委員會議事速記錄第一號

第七十九回 帝國議會貴族院

昭和十七年二月七日(土曜日)午前十時八分開會

○政府委員(松隈秀雄君) 昨日大河内子爵  
カラ御話ノアリマシタ衆議院ノ委員會ニ於  
キマスル質疑ノ主ナルモノニ付テ話ヲセ  
ヨト、斯ウ云フコトデゴザイマスガ、衆議院  
ニ於キマスル論議ハ相當多岐ニ亘ッテ居リ  
マシタノデ、一々御紹介申上ゲルコトハ非  
常ニ煩雜ニナリマスルノデ、其ノ中カラ重  
立ツタモノニ付キマシテ質疑ノ要點ト、ソレ  
ニ對スル大體ノ政府ノ説明トヲ申上ゲマシ  
テ、御参考ニ供シタイト思フノデアリマス、  
先づ一般的ノ問題トシテドウ云フ點ガ問題  
ニナツタカト申シマスルト、其ノ第一點ト致  
シマシテハ、政府ハ最近第七十七回帝國議  
會ニ於テ間接稅ヲ中心トスル増徵ヲ行ツタ、  
尙今議會ニ直接稅ヲ中心トスル増徵案ヲ提  
案シテ居ルノデアルケレドモ、是等ハ何レ  
モ最近ニ於ケル戰費ノ増大ニ對應シテ、國  
庫收入ノ增加ヲ圖ルモノデアルケレドモ、  
戰費ノ支辨ハ公債ト租稅トニ依ツテ賄ハレ  
ルモノデアルト思フガ、租稅ト公債トノ割  
合ニ付テハドノ程度ヲ適當トスルカ、斯ウ  
云フ質問ガアツタノデアリマス、之ニ對シマ  
シテ政府ハ、租稅ト公債トヲ如何ナル割合  
ニ按配シテ戰時財政ヲ賄フベキカト云フコ

困難ニアリ且適當デナイ、大體租稅ハ國民經濟ニ支障ヲ及サズ、又國民ノ擔稅力ヲ考慮シテ、出來得ル限り多額ニ增徵スルコト債トノ割合ト云フモノガドウ云フ比率ニナルカト云フコトガ出テ參ルノデアルガ、最初カラ割合ノミ定メテ、租稅ヲ歲出ノ何「ペーント」迄増徵セネバナラヌト云フヤウナ行キ方ハ執リタクナイト、斯ウ云フヤウナ說明デゴザイマシタ、米英獨等ノ戰爭ヲ致シテ居リマスル國々ニ於キマシテハ、歲出ノ四十「パーント」程度ヲ租稅ニ依ッテ賄シテ居ルヤウナ所モゴザイマスルガ、之ヲ日本ニモ當嵌メマシテ、日本モ其ノ程度迄租稅ヲ以テ歲出ヲ賄フノガ適當デハナイカト云フヤウナ說モアツタノデアリマスルガ、サウ云フ比率ヲ定メテ增稅ヲスルト云フコトハ滴當デナイ、斯ウ云フコトデアリマシタ、ソレナラバ結果的ニ見テ、ドノ程度迄租稅ガ歲出ニ對シテ割合ヲ占メルコトニナッタカト云フコトニ付キマシテハ、大體今回ノ增稅後ニ於テハ租稅及租稅的收入ハ、一般會計及臨時軍事費會計ヲ合セマシタ二百四十三億圓餘ニ對シマシテ、三十一「パーセン」ト弱ノ程度迄參シテ居ル、斯ウ云フ説明デゴザイマシタ、次ニ最近數次ノ增稅、殊ニ今回ノ增稅ニ依リマシテ國民負擔ハ相當増加シタト認メラレルノデアルガ、今後尙増稅ノ餘地ガアルカト、斯ウ云フ質問ガゴザイマシタ、今回ノ增徵ハ平年度化致シマス

七回帝國議會ノ協賛ヲ經マシタ間接稅ヲ加ヘマサス六億三千五百餘萬圓ヲ加ヘマサスルト、其ノ金額ハ相當大額ノ金額ニ達スルノデアリマスルガ、政府ノ觀ル所ト致シマシテハ、之ヲ以テ増徵ノ極致ニ達シタノデアツテ、今後増徵ノ餘地ノナイト云フ風ニハ認メテ居ラヌ、我ガ國ノ國力ノ增進ニ從ツテ國富モ盛エマスレバ、國民所得モ増スニ依ツテハ、今後ニ於テ更ニ増徵ヲ圖ルコトコトガ考ヘラレマスノデ、旁、以テ今後尙或ガアル、斯ウ云フヤウナ趣旨ノ答辯デゴザイマシタ、其ノ次ハ將來ニ於ケル增稅ニ當リマンシテハ、租稅體系ヲドウスルカ、現行ノ租稅體系ノ下ニ於テ尙増徵ヲ行フコトガ出来ルカト云フ趣旨ノ質問デアリマシタ、之ニ對シマシテ政府ハ昭和十五年ニ稅制ノ根本的改正ヲ行ツテ、此ノ新シイ稅制ハ相當ノ彈力性ヲ持ツテ居ルカラ、直チニ稅制ノ根本的改正ヲ行ハナクテモ、現行租稅體系ノ下ニ於キマシテモ、今後或程度ノ増徵ヲ爲スコトハ可能デアルト思フ、併シ増徵ヲ重ネルニ於テハ現行租稅體系ヲ變ヘルト云フコトモ考慮シナケレバナラナイト思ハレルカラシテ、其ノ點ニ付テハ研究ヲ致ス見込創設スル意思ハナイカト云フ御質問ガゴザ次ニ租稅體系ノ變更ノ問題ト絡ミマシテ、イマシタ、賣上稅ニ付キマシテハ、收入ヲ

相當多額ニ上ヶ得ルト云ノ長所ノアルケレ  
ドモ、物價關係其ノ他ニ及シマスル影響モ  
相當考慮ヲ要スルモノガアルノデアリマス  
カラ、今後慎重ニ研究ヲ續ケタイト、斯ウ  
云フ趣旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ財產稅  
ニ付キマシテハ、財產稅ハ兎角不動產重課  
ニ陥リ易イ傾向ガアルカラシテ、之ヲ創設  
スルカドウカト云フコトニ付テハ、今後ニ  
於テ慎重考慮ヲ要スル問題デアル、斯ウ云  
フヤウナ趣旨ノ答辯ガアッタノデアリマス、  
ソレカラ財產增價稅ヲ創設スル意思ハナイ  
カト、斯ウ云フヤウナ御質問モザイマシ  
タ、財產增價稅ト申シマスルノハ、財產ノ  
値上リニ對スル課稅デアリマスガ、財產ヲ  
處分ヲ致シマシタ際デアリマスルト云フト、  
價額ノ増加ガハツキリ搁メルノデアリマス  
ガ、處分ハンナナイデ、持ツテ居ル財產ノ値上  
リヲ捉ヘテ課稅スルト云フコトハ技術的ニ  
相當困難デアルカラ、之ガ採用ハ俄ニ贊意  
ヲ表シ難イ、斯ウ云フヤウナ趣旨ノ答辯デ  
ゴザイマシタ、ソレカラ今回ノ增稅ハ臨時  
的デアツチ、戰後輕減サレルモノデアルカラ  
ウカ、斯ウ云フ趣旨ノ質問ガゴザイマシタ、  
之ニ對シマスル政府ノ答辯ハ、大東亞戰爭  
ハ相當長期ニ亘ル見込デアル、而モ戰後ニ  
於キマシテモ、大東亞共榮圈ノ建設ニ必要  
ナル軍備ノ充實其ノ他ノ爲ニ、相當多額ノ  
經費ヲ要スル期間ガ長ク續クノデアルカラ  
シテ、今後當分減稅ヲスル餘地ハナイヤウ  
ニ思ヘレル、斯ウ云フ答辯デゴザイマシタ、  
次ニ今回ノ改正案ニ於キマシテハ、種々ナ

政策ヲ取人レラレタ爲ニ、却テ昭和十五年  
ノ税制改正ノ目標デアル所ノ税制ノ簡易化  
ニ反スル所ガナイカト、斯ウ云フ質問ガゴ  
ザイマシタ、ソレニ對シマシテハ、税制ノ簡易  
化ノ點カラ言フト云フト、各種ノ政策ヲ織り  
込ンダ爲ニ税制ヲ複雑化シタ點ハ遺憾トス  
ル所デアリマスケレドモ、先般發表ニナリ  
マシタ財政金融基本方策要綱ニ於キマシテ  
モ、税制ハ各種ノ經濟諸政策ト歩調ヲ執ル  
ベキデアル、斯ウ云フヤウナ點モ決メラレ  
タ關係上、貯蓄ノ増強、生産力ノ擴充、產  
業ノ再編成其ノ他人口政策等、各種ノ經濟  
政策ニ歩調ヲ合セル爲ニ、必要ナル税法ノ  
改正ヲ行フコトニナシタノデ、稍、複雑シタ結  
果ニナシタ次第デアルト、斯ウ云フ説明デゴ  
ザイマシタ、次ニ戰時ニ於ケル税制トシテ  
適當ト認メルカドウカト、斯ウ云フ御質問  
ハ必ズシモ負擔平衡ノ原則ノミニ四ハレル  
コトナク、租税ノ普遍化ニ付テ考慮スルフ  
シメルト云フコトハ、戰時下ノ租税政策ト  
シテハ趣旨ハ全ク同感デアルカラシテ研究  
デゴザイマシタ、廣く國民ニ租税ヲ負擔セ  
シメント云フコトハ、戰時下ノ租税政策ト  
シテハ趣旨ハ全ク同感デアルカラシテ研究  
ヲシテ見タイ、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、  
次ニ戰時ニ於キマシテハ多額ノ戰費ヲ租税  
ニ依ツテ調達スル關係上、間接稅若シクハ流  
通稅ノ各種ニ付テ十分研究スルヲ要スルモ  
ノト認メラレル、直接稅ノ増徵ハ固ヨリ必  
要デアルケレドモ、直接稅以外ニ間接稅  
トモ十分ニ研究ヲスル考デアル、斯ウ云フ  
ヤウナ説明デゴザイマシタ、次ニ各稅  
ニ入りマシテ、御説明ヲ申上ゲタイト思  
ヒマス、第一ハ所得稅デアリマス、所得稅  
ノ税率ヲ百分ノ十六ト致シマシテ、分類  
所得稅中最高稅率ト致シタノデアリマスガ、  
其ノ理由ハ何處ニアルカト云フ質問デアリ  
マス、之ニ對シマスル政府ノ答辯ハ、不動產所得  
事業所得ヨリモ重ク稅率ヲ盛ルノガ負擔ノ  
均衡上當然ト思ハレル、而モ從來ハ配當利  
子所得ト資產所得トハ同ジ稅率デ來タノデ  
アルケレドモ、今回ハ國民ノ投資サレル對  
象ガ配當利子所得ヲ產ミ出ス基本ノ方ニ向  
方ニ向フ方ガ望マシイカト申シマスレバ、  
資金ノ蓄積ガ公債、社債、預金若シクハ必  
要ナル生産力擴充等ノ株式ニ向ケラレルコ  
トヲ望マシイトスル所カラ、配當利子所得  
ニ比シテ百分ノ一ダケ不動產所得ノ稅率ヲ  
高メタ次第デアルト云フヤウナ趣旨ノ説明  
デアリマシタ、次ニ不動產所得ノ免稅點百  
五十圓ハ低キニ失セズヤ、斯ウ云フコトデ  
アリマシタ、是ハ不動產所得ニ付テハ免稅  
點二百五十圓ヲ百五十圓ニ下ゲタノデアリ  
マスガ、今回所得稅法ヲ改正致シマシテ、  
勤勞所得、事業所得等ニ付キマシテハ基礎  
控除額ヲ引下ゲ、ソレ等ト權衡ヲ採リマシ  
テ、不動產所得ニ付キマシテハ、免稅點ヲ  
引下ゲマシテ、廣く國民ヲシテ所得稅ヲ納  
メテ戴ク、換言致シマスマレバ、所得稅ヲ出  
來ルダケ國民稅化スルト云フ趣旨ノ下ニ改  
正ヲ行シタノデアリマス、不動產所得ノ免稅  
點百五十圓ト云フモノハ、見方ニ依レバ低  
イノデアリマスガ、是ハ資產所得ニ付テハ  
免稅點ヲ無クシテ課稅スルト云フコトモ成  
立ツノデアリマスガ、課稅技術上餘り小サ

ノ下ニ免稅點ヲ置イタノデアリマス、此ノ程度ノ免稅點デアリマスト、獨身者ニハ或マシタ關係上負擔ガ増加スルコトニナリマスケレドモ、一方家族ノ多イ者ニ付キマシテハ、扶養家族ノ控除ニ付テ擴充スルコトヲ圖リ、擴ガ相當增加セラレル結果、生產力擴充ニ支障ガナイカ、斯ウ云フ點ハ熱心ニ質問ガ云フ說明デゴザイマス、次ニ株式所得ノ負担ガ相当増加セラレル結果、生產力擴充ニ支障ガナイカ、斯ウ云フ點ハ熱心ニ質問ガゴザイマシタ、政府ハ生產力擴充ニ支障ナカラシムル爲ニハ各種ノ方策ヲ講ジタ次第第ニアツテ、例ヘテ申シマスレバ、法人ガ留保所得ヲ以チマシテ時局産業ノ設備擴張ニ充致シマシタ、又時局産業ヲ營ミマスル會社ガ、新規拂込ノ徵收が出來ナイト云フヤウナ事情ガアツテハ困リマスノデ、是等ノ會社ニ於キマスル新規拂込株式ニ對スル配當金ニ對シテハ、分類所得稅ノ輕減ヲ致スコトニ致シテ居リマス、其ノ他株式ノ配當所得ニ對シマシテ綜合課稅ヲ行ヒマスル際ニ、分類所得稅ヲ課スル實際輕減シテ置キマシタ稅金ヲ加算スルコトニナツテ居リマスル現在ノ制度ニ改正ヲ加ヘマシテ、加算ヲ廢止スルト云フコトニ致ス等、各種ノ方策ヲ講ジテ居ルト云フ說明ヲ致シタノデアリマス、次ニ今回ノ增稅ニ依リマシテ預金、貯金等ノ利子ニ對スル分類所得稅モ、百分ノ十カラ百分ノ十五ニ上ッタノ來タス虞ハナイカ、斯ウ云フ質問デゴザイマス、今回分類所得稅ノ增徵ヲ圖リマシタノデ、預金、貯金等ノ利子ニ對スル分類所得稅モ、百分ノ十カラ百分ノ十五ニ上ッタノハ是ハ已ム得ザルニ出デタ所デアルガ、一方貯蓄ノ増強ガ時局下ニ於テ最モ大

切な點デアルコトヲ考慮致シマシテ、貯蓄ノ増強ニ資スル方策ヲ講ジツ、アル、即チ長期預金ニ對シマシテハ、稅率ヲ百分ノ一乃至百分ノ五輕減スル措置ヲ講ジテ居リマス、又銀行貯蓄預金等ノ免稅ノ範圍ハ、現在三千圓デアリマスノヲ五千圓ニ引上げテ居リマス、一方貯蓄組合法ノ改正ニ依リマシテ、貯蓄組合ヲ通ジテ致シマスル預金、貯金等ノ免稅點ノ範圍ヲ引上げマシタ、是等ノ方策ニ依リマシテ大體預貯金ノ減少ヲ來ス虞ハナイモノト認メラレル、斯ウ云フ説明デアリマシタ、次ニ株式ノ實物賣買ニ依ル所得ニ課稅シナインハドウ云フ理由カト云フ質問ガヨザイマシタ、是ハ今回新タニ株式ノ清算取引所得ニ對シマシテ課稅スルコトニ致シタノデアリマス、株式ノ清算取引ニ依リマス所得ニ對シテハ、從來常業トシテ營ンデ居リマス者ニ對シテハ課稅致シマシタガ、其ノ他ノ者ニ對シテハ課稅ヲ致シテ居ラナカッタノデアリマス、此ノ種ノ所得ニ對シマシテモ相當擴稅力ガ認メラレマスノト、又一方過當投機ヲ抑制致シマスニ資スル等ノ見地カラ致シマシテ、今回清算取引所得ニハ課稅スルコトニ致シタノデアリマスガ、株式ノ實物賣買ノ方ハ概シテ堅實ナ投資ト認メラレマスシ、又課稅技術上カラモ實物賣買ニ對シマスル課稅ハ、實物市場ニ於テ行ハレマスモノハ比較的捕捉が容易デアリマスケレドモ、店頭賣買若シクハ個人間ノ賣買ニ至リマスト捕捉困難デアツチ、課稅技術上困難ヲ感ジマスカラ、曹ク實物ノ課稅ハ見送ルコトニ致シタ、斯ウ云フ説明デアリマシタ、次ニ綜合所得稅ニ付テハ、所得稅法第三十三條第三項及第

云フ質問デアリマシタ、是ハ先程モチヨット申上ゲマシタガ、現在株式ニ對シマスル課税ハ、分類所得税ヲ課シマスル際ニ、配當金ノ一割ヲ控除シテ税率ヲ適用致シテ居リマス、從ヒマシテ、結果的ニ申シマスト、配當金ノ百分ノ一ニ相當スル税ガ輕減サレテ居ルノデアリマス、是ハ分類所得税ニ付テハ、株式ヲ取得致シマシタ借金ノ利子ヲ引クト云フコトガ課税技術上困難デアル爲ニ、斯カル優遇方法ヲ認メテ居ル譯デアリマス、處方其ノ株式配當ヲ受ケマスルヤウナガ、綜合所得税ノ課税ヲ受ケマスルカラ、借金ノ利子ノアル者ハ借金ノ利子ヲ引ク、其ノ代リニ分類所得税ニ於テ輕減シテ置イタ税金ハ加算シテ徵收スル、斯ウ云フコトニナックテ居ルノガ現在ノ制度デアリマス、今回ハ株式配當ニ對シマシテハ累進税率ノ課税ガ相當上ツタノデアリマスルノデ、株式配當所得ニ對スル優遇方法ノ一ツ致シマシテ、得ニ對スル優遇方法ノ一ツ致シマシテ、輕減シテ置キマシタ税金ヲ綜合所得税ヲ取ル際ニ加算シテ取ルト云フコトハ止メルコトニ致シタ次第デアリマス、次ニ銀行預金等ニ對スル綜合所得税ノ源泉課税ノ選擇ヲ廢止スル意思ハナイカド云フ、斯ウ云フ趣旨ノ御質問ガアリマシタ、御承知ノ通リ公債社債、銀行預金ノ利子、貸付信託ノ利益ニ付キマシテハ、綜合所得税ヲ課税セラレルノガ原則デアリマスケレドモ、納稅者ノ選擇ニ依ツテ源泉デ比例税率デ課税スルト云フコトヲ認メテ居ルノガ現在ノ制度デアリ

問題ニナシタノデアリマスガ、戰時下ノ現在ニ於キマシテ預金者ノ心理ニ動搖ヲ來シ、戰時ニ於キマシテ必要ナル時蓄增强ニ幾分デモ支障ヲ來スト云フヤ、ウナ措置ハ如何カト思ハレル所カラシテ、依然例外的ノ措置ト致シマシテ、綜合所得稅ニ代ヘマシテ源泉選擇ヲ認メテ、比例稅率ヲ以テ課稅スルト云フ現在ノ制度ヲ存續スルコトニ致シタリト說明致シテ居リマス、次ニ銀行預金ノ利子等ニ對シマスル源泉選擇ノ場合ニ於ケル稅率ヲ百分ノ二十五トシタ理由ハ如何デアルカ、先ニ申上ゲマシタ通り銀行預金ノ利子等ニ對シマシテハ、綜合課稅ニ代ヘテ源泉選擇ヲ認メルノデアリマスルガ、其ノ稅率ハ現在ハ百分ノ十五デアリマスガ、今度百分ノ二十五ニ引上ゲラレテ居ルノデアリマス、百分ノ二十五ト云フ稅率ハ相當高イ稅率ニアリマシテ、分類所得稅ノ今回ノ改正稅率百分ノ十五ト加ヘマスルト云フト、合計百分ノ四十ト云フ稅率ニ相成リマス、從ヒマシテ大所得者ハ源泉選擇ヲ致シマスルト、銀行預金ノ利子等ニ對シテハ四割モ稅金トシテ控除サレルト云フ、斯ウ云フコトニナリマスノデ、ソレハ高キニ失セズヤト云フ、斯ウ云フ趣旨ノ質問デアリマスマス、處ガ銀行預金ノ利子等ハ矢張リ綜合ヲモノハ、所得金額ノ多クナル程、即チ高額所得者程其ノ稅引手取ガ減ルノデアリマスケレドモ、一定ノ所マス、處ガ銀行預金ノ利子等ハ矢張リ綜合ヲ原則ト致シマスカラ、大所得者ニナルニ從ツテ稅引手取ガ減ルノデアリマスケレドモ、一定ノ所マデ行キマスルト云フト、綜合ニ代ヘテ源

ノ二十五ト致シタ次第アル、斯ウ云フ趣旨ノ説明デゴザイマス、次ニ法人税ニ付テノ質問ト致シマシテハ、法人税ノ税率ヲ百分ノ十八カラ百分ノ二十五トシタ理由ハ何處ニアルカ、是ハ低キニ失セズヤト、斯ウ云フヤウナ趣旨ノ質問ガゴザイマシタ、所 得税ニ付キマシテハ増徴ヲ圖ツタノデアリマスルカラシテ、ソレトノ權衡上法人税ニ付テモ増徴ヲ圖ツタ次第アリマス、唯法人税ニ付キマシテハ、生産力擴充ノ點モ考慮セナケレバナリマセヌノデ、百分ノ十八ヲ二十五ノ程度ニ引上ゲタノデアリマシテ、其ノ割合ハ三割八分餘ニ相成ヅテ居リマス、相當ノ引上デアリマシテ、是以上引上ノ餘地ハナイコトハゴザイマセヌケレドモ、餘リ法人ノ税率ヲ引上ゲルト云フコトハ考慮如何デアルカ、國策會社ニ對シテハ如何ナル免稅ヲ與ヘルコトニシテ居ルカ、斯ウ云フ趣旨ノ質問デゴザイマス、國策會社ニ對シマシテハ必ズシモ全部免稅スルト云フ方針ヲ採ツテ居リマセヌ、國策會社ニアツテ其ノ事業ノ性質、事業ノ收益力其ノ他ヲ勘案致シマシテ、免稅ニ依ツテ保護助長スルニ非レバ成立タナイヤウナモノニ、一定期間ヲ限ツテ免稅ヲシテ居ルケレドモ、免稅特權ヲ與ヘナクトモ成立ツ事業デアレバ必ズシモ免稅ヲ致シテ居ラナイ、最近出來マスル各種營團ニ付テモ大體同様ノ見解ノ下ニ免稅スルカ否カラ決メテ居ル、營團ニ致シテモ全部ガ政府出資デアツテ、國ニ代ツテ事業ヲスルト認メラレマスルヤウナモノ、而モ其ノ事業ハ從來民間ニ於テ營マレテ相

當租稅ヲ負擔シテ居ツタト云フヤウナモノデアレバ免稅シ  
デモナイト云フヤウナモノデアレバ免稅シ  
テ居ル、之ニ反シテ全部ガ政府出資デナク、  
民間ノ出資モアリ、ソレニ對シテハ配當モ  
豫定サレルシ、行フ所ノ事業ガ從來課稅ヲ  
サレテ居ツテ成立ツテ居ツタヤウナ事業デア  
ルト云フナラバ、免稅ノ必要ハナイ、斯ウ  
云フ風ナ趣旨ヲ以テ答辯致シテ居リマス、  
次ニ、新稅中電氣瓦斯稅ニ付キマシテハ、本  
稅ヲ從價稅トシタ理由ハ如何デアルカ、全  
國ニ於ケル料金ハ或程度區々ニ瓦ツテ居  
カラシテ、寧口從量稅ヲ可トスベキデハナ  
イカト云フ御質問ガアリマシタ、之ニ付キ  
マシテハ從量稅トルコトモ一ツノ考へ方  
デアリマスルケレドモ、電燈ニ付テ見マス  
ルト云フト、全國ニ於キマシテハ尙相當多  
數ノ定額燈ノ部分ガゴザイマス、從ヒマシ  
テ此ノ定額燈ニアリマシテハ、電氣ヲ量ニ  
於テ幾ラ消費シタカト云フコトヲ判定スル  
コトガ甚ダ困難デアリマスル點ト、租稅ハ  
大體支出能力ヲ押ヘテ之ニ對シテ課稅ヲ  
スル、斯ウ云フ建前ニナツテ居リマスル關  
係上、從價稅ト致シタ次第デアル、斯ウ云  
フ説明デゴザイマス、次ニ、計量器ヲ検査  
ニ參リマスル日ガ毎月必ズシモ一定シテ居  
ラナイ關係上、徵稅上各種ノ困難ハナイカ、  
斯ウ云フ御質問ガゴザイマシタ、之ニ對シ  
マシテハ、檢針日ガ一定シテ居ラナイデモ、  
大體免稅點以上ノモノデアリマスレバ、檢  
針日ニ調ベマシタ料金ニ依ツテ納稅スルヤ  
ウナ扱ニ致シ、唯檢針日ノ異動ガ免稅點ニ  
關係シテ參リマスル際ハ、正確ニ計算致シ  
マスル必要ガアリマスルノデ、其ノ際ハ換算  
表ノヤウナモノヲ作ツテ置キマシテ、免稅點  
カ否カダケハハツキリ定メルヤウニスレバ、

徵稅上モ大シタ手數ヲ要シナイモノト認メラレル、斯ウ云フ趣旨ノ答辯デゴザイマス、次ニ、課稅サルベキ電氣ト非課稅ノ電氣トヲ同一計器ニ依テ使用シテ居ル場合ニ於テ課稅ノ區分ハドウスルカト、斯ウ云フコトデゴザイマス、之ニ對シマシテハ、納稅義務者ヲシテ電氣會社ヲ通ジマシテ、稅務署ニ非課稅ノ電氣ヲ使ヒマスル器具機械ノヤウナモノヲ申告セシメマス、稅務署ニ於キマシテハ豫メ調査シ、業者ノ意見モ徵シタ所ニ依リマシテ、一定ノ非課稅電氣ヲ使用シマスル器具毎ニ控除割合ト云フモノヲ定メテ置キマシテ、ソレヲ適用致シマシテ非課稅ノ範圍ヲ區分スル、斯ウ云フ風ニ致シタイ見込デアツテ、其ノ手續ハ施行規則ニ書キタイト思フ、書クコトニ致シテ居ル、斯ウ云フ答辯デゴザイマス、次ニ、廣告稅ニ付キマシテハ、本稅ハ廣告ヲ第一種ト、第二種トニ分シテ居リマスルノデアリマス、又課稅サルベキ廣告ノ外ニ非課稅ノ廣告モ定メテ、是等ハ命令案ヲ配付致シマシテ、或程度明カナラシメテ居ルゾニアリマスルガ、何シロ新規ノ課稅デアリマスル爲ニ、幾分課稅ノ疑義ガゴザイマシテ、其ノ課稅否ノ疑義ニ付テ質疑應答ガ重ネラレタ次第デアリマス、次ニ馬券稅ニ付キマシテハ、昨日西尾子爵ノ御質問ニモゴザイマシタ通り、本稅ヲ賦課スルコトニ依リ馬券ノ賣上高ニ減少ヲ來シ、馬事施設ノ維持擴充ニ支障ヲ來スコトハナイカト云フ御質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ馬政當局デアル農林省竝ニ軍馬ノ關係カラ致シマシテ陸軍省及大藏省等カラ、今回程度ノ課稅デアリマスルナラバ、從來ノ競馬ノ入場人員、賣上金額ノ增加ノ足取りカラ考ヘテ、

賣上金額ガ著シク減ルトハ認メラレナイ、  
從ヒマシテ必要ナル馬事施設ノ維持擴充ニ  
ハ大體ニ於テ支障ヲ及サナイ見込デアルト、  
斯ウ云フ趣旨ノ答辯ヲ致シテ居リマス、次  
ニ馬券稅ノ創設ニ依リマシテ場外取引ノ增  
加、所謂呑屋ノ跋扈デアリマスガ、サウ云  
フコトニナル虞ヘナイカ、之ニ對スル取締  
方針ハ如何デアルカト云フ御質問ガアリマ  
シタ、之ニ付キマシテハ内務當局ヨリ、從  
來モ此ノ種ノ場外取引ニ對シテハ相當取締ツ  
テ居ルノデアルガ、今後モ取締ヲ嚴重ニス  
ル見込デアルト、斯ウ云フ趣旨ノ答辯ガア  
リマシタ、次ニ、臨時租稅措置法ニ付キマシ  
テハ、企業合同ノ場合ニ於キマシテ所得稅  
營業稅等ヲ減免致シテ居ルノデアリマスル  
ガ、ソレニハ期限ヲ付シマシテ、昭和十八  
年三月三十一日迄ニ企業合同ヲシタモノニ  
限ルト云フ趣旨ニ法文ガ出來テ居リマス、  
其ノ期限ヲ付シタ理由ハ如何デアルカト、  
斯ウ云フ御質問デアリマス、之ニ對シマシ  
テハ企業合同ニ對スル所得稅、營業稅等ノ  
減免ハ時局下必要ナル企業合同ヲ促進スル  
爲ニ、特ニ稅ニ於テモ輕減免除ヲ行フノデ  
アル、ソコデ餘リ長イ期間ニ亘ツテ之ヲ認メ  
ルト云フコトニナルト云フト、企業合同促  
進ノ趣旨ニモ反スルカラ、大體必要ナル期  
間ヲ關係省ト打合セノ上、十八年三月三十  
一日迄トシテ一應打切ルコトニ致シタト、斯  
ヘルモノニ付テハ寄附金審査委員會ニ諮問  
ウ云フ風ニ説明致シテ居リマス、次ニ法人ノ  
寄附金ニ付キマシテハ、今回一定割合以內  
ノモノハ、損金タルコトヲ認メ、一定割合ヲ超  
エルモノニ付テハ寄附金審査委員會ニ諮問

全部益金トスルノガ宜イデハナイカト云フ、  
斯ウ云フ意見ト反対ニ、法人ノ寄附金ハ全  
部損金トシタラ宜イデハナイカト、斯ウ云  
フ兩意見ガアリマス、全部ヲ益金トスペシ  
ト云フ議論ハ、大體法人ノ寄附金ト云フモ  
當重クナッタ場合ニ於テ、寄附ヲスルコト  
ノハ利益ガアッタ場合ニ出スノニアッテ、從ツ  
テ益金處分ヲ以て出スベキノガ本則デアル  
ヤウニ思フ、而モ最近法人ノ租税負擔ガ相  
ニ依ツテ税金トシテ國ニ納メル部分ガ納マラ  
ナクナルト云フコトニナルト云フト、國ト  
シテモ必要ナ財源ヲ失フコトニナッテ如何  
カト思ハレル、斯ウ云フヤウナ趣旨デゴザイ  
マス、反対ニ全部損金トスペシト云フ議  
論ハ、寄附金ハ成ル程任意ノモノモアルケ  
レドモ、最近ニ於ケル寄附金ハ相當強制的  
ナモノモアツテ、是ガ會社ニ對シテハ相當ノ  
負擔ニナツテ居ルカラ、寧ロ全部損金ト認メ  
ルノガ適當デハナイカト云フコトデゴザイ  
マス、政府ノ説明ハ、寄附金ニ付テハ今申  
上ゲマシタヤウナ二様ノ見方ガアル、ソコ  
デ大體從來法人ガ出シテ居リマシタ程度ノ  
寄附金ヲ押ヘマシテ、其ノ平均ヲ取ツテ見マ  
シテ、平均程度迄デアレバ損金タルコトヲ  
認メルケレドモ、平均程度ヲ超エテ法人ガ  
寄附金ヲ致シマスル場合ニ於キマシテハ、  
法人ノ申請ニ依リマシテ寄附金審査委員會  
ニ諮リマシテ、其ノ寄附ノ目的乃至ハ當該  
法律案ヲ提案シテ居ル、斯様ニ説明致シ  
タノデゴザイマス、次ハ戰時災害國稅減免  
法ニ付テノ質問デアリマス、戰時災害ニ  
スル租稅ノ減免ヲ行ヒ得ル其ノ根據法ニ

リマス法案ヲ今回提案致シテ居ルノデアリ  
スマスガ、其ノ法案中ニ於テ、戰時災害ニ對  
スル租稅ノ減免ト云フコトト、課稅標準計  
算ニ關スル特例ノ措置ト、二ツ規定ガゴザ  
スウ云フ御質問デアリマシタ、之ニ對シマ  
シテハ、戰時災害ニ對スル租稅ノ減免ト申  
シマスルノハ、算出サレマシク稅額ヲ全部  
免除シ、若シクハ一定割合輕減スルノ  
ガ租稅ノ減免デアル、課稅標準ノ計算ニ關  
スル特例ト申シマスルノハ、稅金ヲ算出ス  
ル前ノ手續ノコトデアリマシテ、例ヘバ營  
業ノ純益ヲ計算致シマス場合ニ於テ、營業  
ノ經費ヲ引クノハ當然デアリマスケレ  
ドモ、資產ニ被リマシタ損失ト云フモノノ  
ハ、通常ノ場合デアリマスレバ營業ノ經費  
ト見ナイノデアリマスケレドモ、戰時災害  
ニ因リマシテ資產ニ被害ヲ被ッタ、例ヘバ  
自己ノ住シニ居ル店舗ガ破壊サレタ、斯ウ  
云フヤウナ場合ニ於キマシテモ、其ノ住シ  
ニ居ル店舗ノ破壊サレタト云フ資產ノ減失  
ニ因ル損害ヲ營業ノ經費カラ差引クト云フ  
コトニ依テ、營業ノ純益ノ小サク出テ來ル  
ト云フコトヲ特ニ認メル、斯ウ云フヤウナ  
趣旨ノ規定デアル、斯様ニ説明ヲ致シテ居  
リマス、次ニ日滿二重課稅防止ニ關スル決  
律ニ付テノ質問デアリマシタ、日滿二重課稅  
防止ニ關シテ今回新タニ法律ヲ提案シテ居ル  
ノデアルケレドモ、大體ドウ云フ趣旨ヲ以て  
日滿間ニ二重課稅ノ防止ヲ行ハムトスルノ  
デアルカ、斯ウ云フ御質問デアリマス、之ニ  
對シマシテハ、從來滿洲國ニ於キマスル租  
稅制度ガ比較的發達シテ居ラナカッタ時代  
ニ於テハ、日滿間ノ二重課稅防止ハ餘り大  
キナ問題トサレナカッタノデアリマスガ、漸

次満洲國ニ於ケル稅制ノ完備ト相俟チマシテ、今日ニ於テハ日滿間ニ重課稅ノ防止ニ付テ協調ヲ圖ル必要ヲ感ズルニ至ツタ、ソコデ兩國ハ相互主義ノ下ニ於テ今後必要ナル措置ヲ執ルコトニ致シタイ、大體ノ方策ト致シマシテハ、所得又ハ純益ニ對シマスル課稅ハ、所得又ハ純益發生地ニ於テ優先的ニ課稅ヲスル、斯ウ云フコトニ致シタイ、尤モ人的色彩ノ特ニ濃厚デアリマスル綜合所得稅ノヤウナモノニ付キマシテハ、住所地主義若シクハ本店所在地主義ノヤウナチノヲ採用致シタイ、斯ウ云フ趣旨ニ答辯ヲ致シタ次第アリマス

分與ノ方法ニ關シマシテ極メテ緊要ナ點ニ  
付テ手直シヲ行ヒタイ、斯ウ云フヤウナ一  
ツノ理由カラ、今回地方分與稅法中ノ改正  
法律案ノ提案ヲ致シタ次第アルノデゴザ  
イマス、次ハ、今後モ亦國稅ノ增稅ノ都度配  
付稅ノ割合ニ付テ改正スル考デアルカドウ  
カ、言ヒ換ヘマスト、國稅ノ增稅ノ都度注  
律ヲ改正セズニ、自然ニ動イテ行クヤウニ  
シテ置クヤウナ規定ノ決メ方ガナカラウカ  
ト云フ御趣旨デアツタノデアリマス、之ニ付  
キマシテハ、増稅ガゴザイマセヌ場合ノ  
稅ノ收入ノ見込額ニ、現在アリマスル率ヲ掛

カニ、來年度ニ於キマシテハ一億三千二百  
餘萬圓ヲ増加スルコトニ相成ツテ居ルノデ  
ゴザイマス、其ノ次ハ都市ノ財政ハ稅制改  
正ニ依リマシテ財政上ノ彈力性ヲ失ツテ居  
ル、又時局費ノ増加等ニ因リマシテ非常ニ  
困難ヲ感ジテ居ルヤウナ現狀デアル、又  
町村ニ於キマシテハ、分與稅ノ配付額が  
毎年々々増減變動ヲ致シマスノデ、町村  
財政ガ安定シナイ憾ガアル、斯ウ云フ現  
狀ニ鑑ミテドウ云フコトヲスル積リデア  
ルカト云フ御質問デゴザイマシタ、之ニ付  
キマシテハ、今日所謂時局費ガ非常ニ  
殖エテ居リマスルノハ、只今御話ノ通リニ

○委員長(伯爵樺山愛輔君) 次ハ内務省關係ノ問題デゴザイマスカラ、内務省ノ政府委員ニ御願ヒシマス

○政府委員(成田一郎君) 地方分與稅法中改正法律案ニ付キマシテ、衆議院ニ於キマスル質疑應答ノ大要ヲ私カラ御報告ヲ申上ゲタイト存ジマス、先ヅ第一ニ、地方分與稅法ハ施行セラレマシテカラ僅カニ二年ヲ経過シタルダケデアルニモ拘ラズ、斯様ニ毎年改正ヲシナケレバナラヌ理由ハ何デアルカト云フ御尋ガゴザイマシタ、之ニ付キマシテハ先づ第一ニ、國稅ノ增稅ガ屢々行ハレルノデゴザイマシテ、之ニ伴ヒマシテ地方分與稅法ノ改正ヲ必要トスルコトニ相成ルノデゴザイマス、即チ曩ニ入場稅及遊興飲食稅ノ増稅ガアリマシタ場合ニモ、昨年ノ臨時議會デ地方分與稅法中ノ改正ヲ行シタノデゴザイマスガ、又此ノ度所得稅及法人稅ノ増稅方行ハレルコトニ相成リマシタノデ、此ノ稅カラ參リマスル配付稅ノ割合ヲ改正シナケレバナラヌ、斯ウ云フコトニ相成シタ次第デゴザイマス、又モウ一ツニ

ケテ得マシタ配付税ノ金額ヲ確保スル必  
ガアルノデゴザイマス、從ヒマシテ此ノ配  
付税ノ額ヲ確保致シマスル爲ニ國税ノ方ニ  
於テ増税ヲ致シマスト、其ノ増税ノ都度ニ  
ニ伴ヒマシテ此ノ割合ト云フモノヲ改正ニ付  
ナケレバナラヌコトニ相成ルノデゴザイマス  
ス、又一面ニ於キマシテ、國税ノ改正ニ付  
リマシテ地方税ノ收入ニ影響ノアル場合ア  
ルノデゴザイマシテ、斯様ナ場合ニ於ニ  
配付税ノ繰入割合ニ於テ調整ヲシナケレバ  
ナラヌ必要ガ起ツテ參リマスルノデ、將來ニ  
於キマシテモ、國税ノ増税或ハ國税ノ改正  
ノ都度、地方分與税ニ關係ノアル場合ハ、  
改正ヲ致シテ參ラナケレバナラナイト考  
テ居ル次第デゴザイマス、其ノ次ハ、地主  
分與税中ノ配付税ハ、昭和十六年度ニ較ベ  
テ、來年度即チ昭和十七年度ニハドノ位換  
額スルコトニナツテ居ルカト云フ御尋ネゴ  
ザイマシタ、之ニ付キマシテハ、昭和  
七年度ノ配付税ノ總額ハ四億五千二百餘圓  
圓ニ相成ツテ居リマス、而シテ昭和十六年  
度ノ配付税ハ三億二千餘萬圓デアリマス

アルノデアリマシテ、之ニ對シマシテハ、一面ニ於テハ平常的ナ經費ノ節約ヲ出來ルダケ圖ラセル、又他面ニ於キマシテハ國費地方費ノ負擔區分ノ改正ヲ行フト云フヤウナコトノ外ニ、今回ハ先程申上ゲマシタク、ウニ、昭和十七年度ニ於テハ相當程度ノ付稅總額ノ増加ガ出來ル見込デアリマヌトノデ、市町村一般ヲ通ジマシテ、相當財政上緩和シ得ラレル見込デアルノデアリマス、又毎年度配付稅十分トハ申シマセヌケレドモ、兎ニ角ヤツヒ行ケルダケノコトハ大丈夫デアルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、又毎年度配付稅ノ分與額ガ減滅ヲスルコトガゴザイマヌトノハ、是ハ地方分與稅ノ制度ノ上カラ見マテ、其ノ地方團體ノ課稅力等ニ比例シテ培減スルト云フ建前ニナツテ居ルノデゴザムカラ、是ハドウモ已ム得ナイコト、考ヘテ居リマス、併シ斯ウ云フ點ニ付キシテハ、尙政府ニ於キマシテモ今後十分研究ヲ致シタイト考ヘテ居ル次第ゴザムマス、次ハ市町村民稅ニ彈力性ヲ與ヘマニテ、依ツテ以テ市町村ノ財源不足ヲ補填サ

ス、之ニ付キマシテハ御承知ノヤウニ、地方稅法モ亦只今經過年慶中ニ屬シテ居リマシテ、地方分與稅法ノ施行ト相俟ツテ、著々其ノ實是等ノ制度ガ全面的ニ發動シタ其ノ結果ヲ見究メズシテ、更ニ又大キナ改正ヲ行フト云フコトハ如何デアラウカト考ヘテ居ルノデゴザイマス、而シテ市町村民稅ハ其ノ創設サレマシタ趣旨ニ鑑ミマシテモ、之ニ關スル制限ヲ緩メマシテ、再ビ戶數割ノ弊ヲ見ルコトノナイヤウニシタイト云フノガ根本ノ考方デアルノデアリマス、從ヒマシテトデナク、分與稅ノ總額ヲ殖ヤスト云フヤウナ、他ノ方法ニ依ツテ考ヘテ行クベキモノデアルト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニハ、國政事務ノ地方公共團體ニ對スル委任ハ年々増加シテ居リマンテ、地方財政ヲ壓迫シテ居ル實情デアルカラシテ、政府ハ國費及地方費ノ負擔區分ヲ確立スル必要ガアルノデハナイカ、之ニ對スル考ヘドウデアルカト云フ御尋デゴザイマス、現在ノ時局下ニ於キマシテ、地方公共團體ニ對スル國ノ事務ノ委任が非常ニ増加シテ居ルコトハ誠ニ其ノ通リデゴザイマス、而シテ又地方團體ヲシテ是等ノ委任セラレタ事務ヲ十分ニヤラセル爲ニハ、之ニ必要ナル財源ヲ與ヘナケレバナラナイコトモ勿論デアルト存ジテ居リマス、斯ウ云フ點カラ見マシテ、國費及地方費ノ負擔區分ヲ是正致シマスコトハ誠ニ緊要トスル所ト考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、曩ニ此ノ地方分與稅制度ガ創設セラレマス場合ニ、

等ニ付テハ負擔區分ノ是正ガ行ハレマシタ、又昨年ノ臨時議會ニ於テ、防空法ニ付テ矢張リ此ノ問題ニ付テノ解決ガアツタ譯ニアリマスガ、將來ニ於キマシテモ關係方面ト十分ニ相談ヲ致シマシテ、此ノ負擔區分ノ是正確立ト云フ方向ニ向ツテ著々實現ヲ圖リタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第アリマス、以上御答ヘ申上ゲマス

○委員長(伯爵樺山愛輔君) ソレデハ是カラ大藏省ノ方ノ御質問ヲ願ヒマス

○子爵大河内輝耕君 チヨット質問ノ前ニ委員長ニ伺ヒタイト恩フノデスガ、豫算ノ方ノ審議モ今ヤツテ居リマス際デ、大藏大臣ノ出席ヲ兩方へ願フノハ御困リグラウト恩ヒマスガ、大藏大臣ガ何トカ一日、日ヲ決メテ此處ニ御出席下サルト、審議ノ上ニ大變便利ダト思ヒマスガ、ドウカ政府ノ方ト御打合セ下サイマシテ、其ノ日ヲ決メテ戴キタイ

○委員長(伯爵樺山愛輔君) チヨット御諮詢致シマス、大藏大臣ハ今朝ハ都合ガ付キマセヌガ、午後ハチヨットナラバ都合ガ付クダラウト云フ御話デゴザイマスガ、御諮詢シタインハ、大藏大臣ノ都合ノ付キマス時ニ、一ツ十分ニ時間ヲコチラニ分ケテ戴キマシテ、成ルタケ其ノ日ニ一ツ大藏省關係ノ方ヲ濟マスヤウニシテハドウカト云フ考モアルノデスガ、皆サンノ御意見ハドンナモノデセウカ、サウスルト今日ハ午後八止メマシテ、月曜日ニ若シ大藏大臣ノ御都合ガ付ケバ、十分ニ月曜日ニヤツテ戴クト云フコトデ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

アレバ是カラ願ヒタイト思ヒマズ  
○子爵大河内輝耕君 私ハ大藏當局ニ伺ヒ  
タイノデスガ、償却ノ點ニ付テ色々御考ガ  
アツタヤウニ今伺ヒマシタガ、具體的ニドウ  
云フ風ナ點ガ改正ニナツテ居リマスルカ、一  
應伺ヒタイ

マシタ、即チ通常ノ償却方法、時局産業ノ場合ノ償却ノ方法、ソレカラ臨時租税措置法ニ依ル特別ノ償却方法ト云フコトニナツテ居リマシタガ、之ヲニツニ併セマシテ、時局産業ノ場合ト通常ノ場合トヲ一ツニ統合シマシテ、ソレト臨時租税措置法ニ依ル特別償却トノニツニ改シタノデアリマス、サウシテ計算ノ簡易化ヲ圖ルコトニ致シタイト云フノガ大體ノ改正案ノ骨子デゴザイマス。

○子爵大河内輝耕君 能ク分リマシタ、尙又其ノ點デ御質問ノ方ガアルト思ヒマスカラ、チヨント控ヘテ置キマス。

○野村徳七君 株式清算取引所得税ニ付テ御伺ヒ致シタイ、納稅者ノ申告ニ依ツテ課稅致スト云フコトニナツテ居リマスガ、ドウモ此ノ申告ハ果シテ正確ナルモノヲ得ラルルカドウカ、非常ニ疑問ガアルヤウニ思ハレル、申告万ナカツタ場合ハ、一々大藏省ハ其ノ調査ヲドウ云フ風ニナサルノデスカ、又ドンナ方針デ之ガ査定ヲセラレルノデアリマスカ、ドウモ考ヘマスル處、源泉課稅ニ依ツテ徵稅サレタ方ガ正確デアッテ、非常ニ便宜デモアルノデハナイカト考ヘラレルノデアリマス。

○政府委員(松隈秀雄君) 株式ノ清算取引ニ依リマスル所得ニ對シテ、新タニ課稅スルコトニ致シタノデアリマスルガ、是ハ所得稅法第十條ニ、第七トシテ清算取引所得ヲ加ヘタノデアリマスルガ、外ノ所得トノ係上、矢張リ建前ハ納稅義務者ノ申告ニ依ルコトヲ適當ト認メタノデアリマスガ、併シ課稅ノ實際ニ當リマシテハ、御話ノ如ク納稅義務者ノ申告ノミニ依リマスルコト

ハ調査不十分ノ虞ガゴザイマスルノデ、此ノ株式清算取引ノ所得ニ對シマシテハ、取引所ノ協力ヲ衷心ヨリ希望致シテ居所デゴザイマス、取引所モ此ノ課税ニ付キマシテ贊意ヲ表シテ、徵稅當局ト密接ナル連絡ヲ圖ルト云フコトヲ申シテ居リマス、申上ゲル迄モナク清算取引ハ、取引所ヲ通ジテ行ヒマスルノデアリマシテ、取引所ノ取引員ハ、必要ナル帳簿ヲ備ヘテ記帳スルコトニ相成ツテ居リマスルノデ、其ノ帳簿ニ依ツテ資料ヲ得ルコトガ出來マスルノデ、場外取引ト異リマシテ、此ノ部分ハ大體ニ於テ課税ノ捕捉ニ誤ガナイト存ジテ居ル次第デゴザイマス、源泉課税ニスルト云フコトモ一ツノ方法デアリマスルガ、損失ノ場合……常ニ利益スルバカリデナクテ、損失ヲ被リマスル場合モゴザイマスルノデ、矢張リ損益ヲ差引イテ所得ノアリマシタ場合、而モ三千圓ヲ控除シテ課税ヲスルト云フノガ實情ニ合フト思ヒマシタノデ、サウ云フ建前ニ致シマシタ、之ヲ若シ源泉課税ニシマスルト、甲ノ店ノ取引ニ於テハ利益ガアッタ、乙ノ店ノ取引ニ於テハ損損ガアッタ云フヤウナ場合ニ、店ガ達ツテ居レバ差引モ何モ出來マセヌカラ、同一人ニ付テ一年間ノ損益ハ差引イテ所得ヲ見ル、斯ウ云フコトニ致シマシタ爲ニ源泉課税デナク、賦課課税ノ方法ニ依ルコトニ致シタヤウナ次第アリマス、尙其ノ場合ニ於キマシテモ、出來ルダケ取引員ノ協力ニ依リマシテ、儲ケノアッタ際ニ於キマシテハ、其ノ儲ケノ一部ヲ取引員ノ店ニ保留スルヤウナコトニ付テ、今後協力的ニ運ビマシテ、納稅上困難ヲ感ジナイヤウナ方法ヲ執ルコトニ付テハ注意ヲシテ參リタイト思ツ

テ居リマス

○野村徳七君 結構デス

○子爵大河内輝耕君、先程ノ國策會社ノ課稅方針、現今ノ方針ヲ御説明ニナリマシタガ、何カ具體的ノ例デ説明シテ戴キタイモ色々ゴザイマスルガ、例ヘバ大日本肥料、日本石炭、東亞海運ト申シマスルヤウナ國策會社ニ付キマシテハ現在ノ處、特ニ稅ノ輕減ヲ行ハナイデモ事業ガ成立ツモノト考ヘラレマスルカラシテ、免稅ヲ致シテ居リマセヌ、之ニ反シマシテ北支那開發會社等ノ如キニ於キマシテハ、相當開發事業ニ困難ヲ感ズルニモ拘ラズ、國策的ニ之ガ開發ヲ行ハムトスルヤウナ次第ゴザイマス、當分利益ヲ擧ガ得ル見込ガナイト云フヤウニ見込マレマシタノデ、十年間法人稅、營業稅ヲ免除スルト云フヤウナコトニ致シテ居リマス、尙營團ニ付テ申上ダマスルト云フト、帝都高速度交通營團ニ於キマシテハ、從來カラノ營業デアリマス地下鐵ヲ引繼ギマシタ部分ハ、是ハ地下鐵時代ニ課稅ヲ受ケテ居ツテ、營業トシテモ相當ノ利益ヲ擧ゲテ居ツクノデアリマスカラ、其ノ部分ニ對スルモノニ付キマシテハ、相當「コスト」ガ高イニモ拘ラズ、ソレニ相當スルダケノ料金ヲ上げ得ルコトハ到底困難ト認メラレマスノデ、之ニ對シマシテハ、其ノ部分ニ對スルモノハ十年間免稅ノ特權ヲ與ヘルト云フヤウニ致シテ居リマス、產業設備營團ノ如キモノハ、政府ガ全額出資致シマシテ、特

ニ國ニ代ヅテ其ノ種ノ事業ヲ行フト云フ  
シ認メラレマスノデ免稅致シテ居リマス、  
住宅營團ニ付テモ同様デゴザイマス、尙今  
回新タニ提案サレテ居リマスモノニ付キマ  
シテモ、略、同様ナコトガ申上グラレルノデ  
アリマシテ、例ヘバ日本銀行ハ今度法律ニ依  
リマシテ國策會社トモ稱スベキモノニ相成  
ル譯デアリマスガ、從來日本銀行ニ對シテ  
ハ法人稅等ノ課稅ヲ致シテ居リマシタ、又  
日本銀行ハ必ズシモ免稅シナケレバ收支債  
ハナイト云フヤウニハ認メラレナイノデア  
リマス、ソコデ今回日本銀行法ニ依ツテ、日  
本銀行ガ國策會社トモ見ラルベキ地位ヲ獲  
得スルノデアリマスガ、日本銀行ニ對シテ  
ハ特ニ法人稅ヲ免除スルト云フ規定ハ置イ  
テ居リマセヌ、唯日本銀行ニ對シテ營業稅  
ヲ課シマスルト云フコトハ、普通ノ營業ヲ  
ヤツテ居ルヤウニ誤解サレル虞モアリマス  
ノデ、營業稅ハ課稅シナイ、斯ウ云フコト  
ニ致シテ居リマス、ソレカラ醫療營團ノヤ  
ウナモノハ全部政府出資デアリ、ソレカラ  
南方開發金庫モ當分ハ民間出資ガゴザイマ  
セヌ、是等ノモノニ付テハ免稅致シテ居リ  
マスガ、食糧營團ノヤウナモノハ、大體從  
來課稅ヲ受ケテ營業シテ居リマスル米麥等  
ノ配給ガ此ノ營團ニ引繼ガレマスノデ、一  
方政府出資ノ外ニ民間ノ出資モアツテ配當  
ガ豫定サレテ居リマスノデ、是等ニ付テハ  
免稅ノ規定ヲ置カナインデモ大體ヤツテ行ケ  
ルモノト認ヌマシタノデ、免稅ヲ致ス建前  
ニナツテ居ラヌ、斯ウ云フヤウナ實情デアリ  
ニ免稅スル、ソレカラサウデナイモノハ擔  
マス

稅力ノナイモノダケハ免稅スルノダ、大體斯ウ云フ風ニ心得テ宜シノデスカ、ソレモサウデナクテ、政府出資ノモノハ總て免稅スルガ、他ノ政府出資ダナイモノハ擔稅シテ行クト云フヤウナコトナノデセウカ、ドウ云フ風ニ承知シテ宜イノデスカ  
○政府委員(松隈秀雄君) 政府出資ノミニ依ツテ行ハレマスル場合ハ大體免稅ノ取扱理由ハ、政府ダケガ出資ヲシテ特ニ事業ヲ致シテ居リマスルガ、其ノ由ツテ來マスル行ヒマスルヤウナ場合ニハ、民間出資ニ依ツテハ行ヒ難イ事業、即チ民間ノ出資デ配當ヲ豫定シタノデハウマク行カナイ、ソコデ政府ガ出資致シマシテ、政府ノ出資ニ對シテハ當分配當ノ如キモノヲ豫定シナイデ行クト云フヤウナ事業ガ多イノデゴザイマス之ニ反シマシテ、民間ノ出資ガアルト云フノハ自ラソコニ事業上相當ノ收益ガアッテ、政府出資ハ扱テ措キ、少クトモ民間出資ニハ或程度ノ配當ガアル、從ツテ事業ハ相當採算上成立ツ、場合ニ依ツテハ政府補給金ノ必要ノモノモゴザイマスケレドモ、大體方針ハ課稅ヲ受ケテモ收支ノ計算ガ成立ツテ行クト、斯ウ云フ趣旨ニナツテ居リマスルノデ、先程モ申上ゲマシタ通り政府出資ノミデ行ヒ、大政體府ニ代ツテ其ノ事業ヲ營ムト云フヤウナ形ノモノハ免稅デアル、之ニ反シテ民間出資ガアリ、民間ニ對スル配當ガ豫定サレテ居リマスルヤウナモノハ特ニ擔稅力ガナイ、或ハ事業ガ非常ニ危險デ收支償ハナシ處ガアルト云フヤウナ場合以外ハ課稅ス

ルト、斯ウ云フヤウニシテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 細カイコトヲ伺フヤ

ウデスガ、今御引キニナッタ交通營團デスガ、

或部分ハ掛ケル、或部分ハ掛ケナイト云フ

コトニナツテ居ル、今ノ點カラ見ルト云フト、

斯ウ云フモノハ全部掛ケラレテモ宜イモノ

ノヤウニ思ハレルノデスガ、其處ノ點ハド

ウ考ヘタラ宜イデセウ

○政府委員(松隈秀雄君) 帝都高速度交通

營團ニ於キマシテハ、從來ノ地下鐵等ノ引

繼モ受ケマシテ、ソレト同時ニ今後必要ニ

應ジテ交通網ノ建設ヲ致スノデアリマスル

ガ、從來ノモノデアリマスト建設費ガ比較

的安ク出來テ居リマシテ、ソコデ收益ガア

ルノデゴザイマス、此ノ部分ヲ引繼イダ場

合ニ於テ、其ノ部分ニ對シテ特ニ免稅デ保

護シナイデモ既設事業トシテ既ニ成立ツテ

居ルノダカラソレハ差支ナイ、處ガ今後帝

都ノ交通網ヲ整備スル爲ニ必要ナル路線ノ

建設ヲ致スニ當リマシテハ、資材ガ騰貴シ

テ居リマスル關係上相當高ク附クノデアリ

マス、併シ一體トナツテ交通網ヲ經營スル

ト云フコトニナレバ、其ノ部分ノ料金ダケ

ナクナリマスノデ、其ノ引合ハナイ期間ヲ

ハ上ガルト、斯ウ云フ譯ニモ行カナインオデ、

ドウシテモ前ノ「コスト」ノ低カッタモノト通

ジタ料金シカ取レナイ、サウナレバ引合ハ

テノミ免稅スルト云フコトニ致シテ居ル次

第デアリマス

○子爵大河内輝耕君 ソレデ能ク分リマシ

タガ、詰リ交通營團ハ特別ノ性質ガアリ、過

渡ノ時代ニ於テハ此ノ原則ニ依ラナイガ、漸次此ノ原則ノ中ニ持ツテ來ルヤウナ心持

デ行ク、斯様ニ了解シテ宜イノデスカ

○政府委員(松隈秀雄君) 御説ノ通リデア

リマシテ、大體課稅シテ差支ナインオデアリ

マスガ、特ニ一部分ニ付テハ課稅ヲ免除シ

テ保護助長スル部分ガアルカラ、一定年間

ダケハ保護助長シテ、其ノ後ハ全部課稅ヲ

スルト云フコトニ相成ル譯ニアリマス

○三浦新七君 今度新タニ入リマシタ此ノ

不動產ノ増價稅、之ニ付テ御伺ヒシタイ譯

ニアリマスガ、是ハ是カラ先ノ一般ノ増價

デ、今ノ問題ニ關聯シテ起ツテ來ル問題ダ

ラウト思ヒマスカラ、土地ニ付テバカリ

ミ合セテ、サウシテ其ノ間ノ經費ヤ何カヲ

得價額ヲ押ヘテ、ソレト今日ノ賣上代ヲ睨

ミナシニ御聽キシタイト思フ譯ニアリマス

ガ、先程ノ御話デ、本案デ昭和十一年ノ取

得價額ヲ押ヘテ、ソレト今日ノ賣上代ヲ睨

ミ合セテ、サウシテ其ノ間ノ經費ヤ何カヲ

加ヘテ五分ヲ引ク、五分ヲ引クト云フノデ

スカ、五分ヲ加ヘルト云フノデスカ、サウ

云フヤウナ五分ト云フ數字ガ出テ居ル、其

ノ五分ト云フ所ハドウ云フ風ナ所ナンデス

カ、斯ウ云フ外ノ方面カラ問題ヲ起シマス

ト、昭和十一年ト云フモノカラ今年迄ノ間

ノ衆議院ニ出サレタ參考書類ニ依リマスト、

相當其ノ物價騰貴ノ傾向ガ著シクナツテ居

リマス、約五割騰ツテ居ルヤウナ狀態ニナッ

テ居リマス、其ノ一般物價ノ率ト云フコト

ヲ此ノ增價稅ヲ取扱フ場合ニ於テドウ御考

スカ、五分ヲ加ヘルト云フノデスカ、サウ

云フヤウナ五分ト云フ數字ガ出テ居ル、其

ノ五分ト云フ所ハドウ云フ風ナ所ナンデス

カ、斯ウ云フ外ノ方面カラ問題ヲ起シマス

トシテ課稅ヲシヨウト、斯ウ云フ積リナン

デゴザイマス、其ノ場合ニ於キマシテ、昭

和十一年十二月三十一日ノ價額ヲ想定スル

中ノ利得ノ合計額カラ五千圓ヲ控除シマシテ、殘リニ課稅スルコトニ致シタノデアリ

マス、其ノ場合ニ於テ最近ニ取得シマシタ

不動產等ニアリマスレバ、取得價額ガハッキ

リシテ居ルノデアリマスルガ、ズット以前

カラ持ツテ居ツタ不動產ヲ最近ニ賣ツタト、斯

ウ云フ場合ニ於テ何時ノ價額ヲ以テ取得價

額トスルノデアルカ、先祖傳來持ツテ居リマ

シタ土地ナンカニ至ツテハ、取得價額ハ非常

ニ低イモノニナツテシマフ關係上、非常ナ差

額ガ課稅ノ對象ニナルト斯ウ云フコトニナ

リマスノデ、事變前カラ持ツテ居リマスヤ

ウナ不動產ニ付キマシテハ、是ハ船舶鑄業

權ニ付テモ同様ナコトヲ認メテ居リマスガ、

昭和十一年十二月三十一日現在ノ價額ヲ想

定致シマシテ、其ノ價額ト處分致シマシタ

當時ニ於ケル價額トノ差ヲ以テ利得金額

トシテ課稅ヲシヨウト、斯ウ云フ積リナン

デゴザイマス、其ノ場合ニ於キマシテ、昭

和十一年十二月三十一日ノ價額ヲ想定スル

ノデアリマスルガ、其ノ價額ト處分致シマ

シタ時ノ價額ニ、ホンノ僅カノ差ガアッテ

モ直ニ課稅スルカドウカ、斯ウ云フ問題デ

アリマスガ、元々昭和十一年十二月三十一

日ノ價額ト云フモノガ想定價額ニアリマス、

其ノ想定價額トノ間ノ差ガ僅カデアッテモ

ト此ノ增價稅ヲ取扱フ場合ニ於テドウ御考

スカ、五分ヲ加ヘルト云フノデスカ、サウ

云フヤウナ五分ト云フ數字ガ出テ居ル、其

ノ五分ト云フ所ハドウ云フ風ナ所ナンデス

カ、斯ウ云フ外ノ方面カラ問題ヲ起シマス

ト、昭和十一年ト云フモノカラ今年迄ノ間

ノ衆議院ニ出サレタ參考書類ニ依リマスト、

相當其ノ物價騰貴ノ傾向ガ著シクナツテ居

ノデアリマス、處ガタツタ百分ノ一定程度ノ値上リト云フヤウナモノデアルトシマスレバ、評定價額ノ如何ニ依ツテモサウ云フモノニハ出タリ出ナカツタリスルト思ハレマス、ソコニ餘リ無理ガアツテハイケマセヌカラシテ、昭和十一年十二月三十一日ノ價額ニ五分程度加算シマシテ、ソレヲ取得價額ト見ル、斯ウシテ置ケバ、五分程度ノ動キノ範圍内デアレバ課稅範圍ニハ入ツテ來ナイ、斯ウ云フコトニ相成ル譯ニアリマス、其ノ百分ノ五ヲ押ヘマシタノハ、大體課稅ニ無理ノナイ所トスレバ、五分程度加算シタノガ、事變前カラ今日迄ノ物價騰貴率ニ相當スルモノヲ控除スルト云フヤウナ趣旨デハゴザイマセヌ次第デアリマス

○三浦新七君 只今ノ趣意ハ能ク分リマシ

タノデアリマスガ、唯、今ノ增價稅ヲ考ヘル場合ニ於テ、一般物價ノ騰貴トカ下落ト

カ、下落ハマア問題ニナリマセヌケレドモ、

サウ云フヤウナモノヲ御考ノ中ニ入レナイト云フコトニナリマスルノデスカ、是ハ

ノデアリマスルガ、恐ラク利得金額モ五千圓ヲ控除シテ課稅スルト云フコトハ、其處ニ無理ガアル

ノデハナイカ、差額ガ僅カデアッテモ

ト此ノ增價稅ヲ取扱フ場合ニ於テドウ御考

スカ、五分ヲ加ヘルト云フノデスカ、サウ

云フヤウナ五分ト云フ數字ガ出テ居ル、其

ノ五分ト云フ所ハドウ云フ風ナ所ナンデス

カ、斯ウ云フ外ノ方面カラ問題ヲ起シマス

ト、昭和十一年ト云フモノカラ今年迄ノ間

ノ衆議院ニ出サレタ参考書類ニ依リマスト、

相當其ノ物價騰貴ノ傾向ガ著シクナツテ居

リマス、約五割騰ツテ居ルヤウナ狀態ニナッ

テ居リマス、其ノ一般物價ノ率ト云フコト

ヲ此ノ增價稅ヲ取扱フ場合ニ於テドウ御考

スカ、五分ヲ加ヘルト云フノデスカ、サウ

云フヤウナ五分ト云フ數字ガ出テ居ル、其

ノ五分ト云フ所ハドウ云フ風ナ所ナンデス

カ、斯ウ云フ外ノ方面カラ問題ヲ起シマス

ト、昭和十一年ト云フモノカラ今年迄ノ間

ノ衆議院ニ出サレタ参考書類ニ依リマスト、

相當其ノ物價騰貴ノ傾向ガ著シクナツテ居

リマス、約五割騰ツテ居ルヤウナ狀態ニナッ

テ居リマス、其ノ一般物價ノ率ト云フコト

ヲ此ノ增價稅ヲ取扱フ場合ニ於テドウ御考

スカ

○政府委員(松隈秀雄君) 財產增價稅ヲ創

設致シマスル場合ニ於テハ、取得價額ト處

カト云フ場合ニ考ヘルノデゴザイマスガ、

如何デゴザイマスカ

○政府委員(松隈秀雄君)

財產增價稅ヲ創

設致シマスル場合ニ於テハ、取得價額ト處

カト云フ場合ニ考ヘルノデゴザイマスガ、

如何デゴザイマスカ

○子爵大河内輝耕君 ソレデ能ク分リマシ

タガ、詰リ交通營團ハ特別ノ性質ガアリ、過

渡ノ時代ニ於テハ此ノ原則ニ依ラナイガ、漸次此ノ原則ノ中ニ持ツテ來ルヤウナ心持

ニ於テ一般物價ノ騰貴率ダケハ當然騰ツタ  
ノデアルカラ差引イテ課稅スル、其ノ外何  
カ特殊ノ事由ニ依ツテ、例ヘバ其ノ地方ニ停  
車場ガ出來タ、或ハ學校方開設サレタト云  
フヤウナ理由カラ、特ニ值上リシタト云フ  
部分ダケ見付ケテ課稅スルカト云フノデア  
リマスルガ、大體サウ云フ風ナ區分ヲスル  
コトハ困難モアリマスルノデ、一般物價  
ノ値上リ率ヲ差引イテ課稅スルコトハ如何  
カト思ハレマス、即チ大體認メナイ方ガ宣  
イノデハナイカト思ヒマス、其ノ場合ニ於  
テモ、價額ノ差ニ對シテ直チニ課稅スルカ、  
幾分取得價額ニ對シテ割増ヲ認メルカト云  
フ問題ガ殘ルノデアリマスルガ、最近ノモ  
ノデアレバ割増ヲスル必要ガナイ、唯古ク  
カラ持ツテ居リマシテ、サウ云フモノニ付テ  
或時期ノ想定價額ト云フヤウナモノヲ附ス  
ル場合ニハ、想定價額ノ附シ方ニ無理ガアッ  
テモイケマセヌカラ、旁、以テ五「パートセン  
ト」程度殖ヤシテ見ルノガ適當デハナイカ  
ト、斯ウ云フ風ニ存ズル次第アリマス

テコトニ因ツテ多少此ノ收益率ノ割合ガ上ツ  
テ來ルト云フダケノ話デアリマス、サウ云  
フヤウナモノニ付テノ見地、若シクハ收益  
力、ソレノ利用價値ト云フ方ノ見地ヲ相當  
稅等ニ於テモ參照スベキヂヤナイカ、サウ  
云フ工合ニ考ヘルノデアリマスガ、如何デ  
ゴザイマスカ

レノ何ト申シマスカ、利用價値ト云フモノハ非常ニ減ッタモノニナル、事實サウ云フヤウナコトデアリマシテ、此ノ物價ノ高低ニ依ツテ、近頃ノ如クニ著シク物價ガ……、近頃ヂヤナイ、此ノ「ヨーロッパ」戦争以後ノ如クニ物價ノ高低ガアル場合ニハ皆因ツテ居ル問題ナンデス、サウ云フモノガ會社デアルトカ、何ト云フ場合ニ於テハ例ヘバ株券ト云フヤウナモノハ、大體買入値段ト云フヤウナモノデ以テ組ンデ居ル、サウシテソレガ高クナツテモ直チニ利益ヲ出サナイト云フ、斯ウ云フヤウナコトニナツテ、平均ヲ採ツテ居ルヤウナ状態ナノデアリマス、其ノ表面的ノ價値ノ相違ト云フヤウナコトハ、實際ノ力ノ相違、ソレニ依ツテ收獲スル利益ノ高ト云フモノトハ殆ド……ト言ツテハ惡イデセウガ、關係方非常ニ薄イモノデアル、其ノ率ヲ稅法ニ於テ認メルヤ否ヤト云フ問題ナノデアリマス、今御話ノ如クニ、去年買ツテ今年賣ツタ、今年買ツテ直グ賣ルト云フヤウナ場合ニハ、是ハ問題ハアリマスマイ、是ハ全ク一種ノ「スペキユレーション」ノ爲ト申シマスカ、サウ云フヤウナ賣買ニ依ツテ利潤ヲ得ヨウト云フコトカラ來ル動機ナノデアリマスガ、ソレハ問題ニナリマセヌガ、ソレヲ利用スルト云フ見地カラ行キマスト、モウ少シソレハ考ヘナケレバナラヌノデヤナイカト、サウ云フモノヲ多少置クベキヂヤナイカト、云フ考ガアリマスガ、如何デセウカ

課税スルノハドウカト、斯ウ云フヤウナ御  
趣旨デアリマスガ、一般ノ財産増加税ヲ設  
ケマシテ、處分ヲシナイ場合ニ於テモ價值ノ  
増加ニ課税スルト云フコトニナリマスルト  
云フト、御議論ノヤウナ點ガ問題ニナッテ來  
ルト思フノデアリマスルガ、今回ハ一般ノ  
財產増價税ハ先程モ説明致シマシタ通りノ  
理由ニ依リマシテ、暫ク將來ノ問題トシテ  
研究スル程度ニ止メテゴザイマス、現實處  
分ヲシマシテ、現金化サレタ場合ニ對シテ  
ノミノ課税デアリマス、從ヒマシテ百圓デ  
取得シタ物、若シクハ百圓ノ價值アリトシ  
テ評價サレマシタ物ガ百五十圓ニ賣レテ、  
現金ニナツタ場合ダケニ對シテ課税シヨウト  
云フ趣旨デアリマスルノデ、利用價值等ノ  
點ハ考慮シナクテモ、此ノ場合ハ差支ナイ  
ノデハナカト思フノデアリマス

アリマスガ、ソレハ別シマシテ、其ノ方ハ近頃地方財政が困ツテ居ルト云フコトノ結果制限率ダケデナク、トンデモナイ率ガ掛ツテ居ル所ガ多イノデアリマス、サウ云フヤウナ事情デアリマスガ、之ヲサウ云フ工合ニ決メル場合ニ於テ、凡ソ不動産ニハド收益ガアルト云フコトヲ數字的ニ御考ニナツテ、是ダケノ差等ヲ御付ケニナツタノデアリマスカ、或ハ小刻ミト云フ所デ一ツ行カウト云フ御考ニゴザイマスカ、其ノ點ヲ一つ伺ヒタイ

○政府委員(松隈秀雄君) 今回分類所得稅ノ改正ニ當リマシテ、不動産所得ト配當利子所得トノ間ニ、百分ノ一ノ税率ノ間差ヲ置イタノデアリマスガ、其ノ理由ハ私ガ冒頭ニ大體説明ヲ申上ダタヤウナ趣旨デアリマシテ、只今又三浦委員ノ仰シタ通りアリマス、其ノ百分ノ一ノ根據デアリマスガ、之ニ付キマシテハ、數字的ニ百分ノ一ダケ達ハサナケレバナラナイ、斯ウ云フヤウナ根據ガアッテノモノデハゴザイマセヌ、尙只今御述ニナリマシタヤウニ、不動産ニ對シテ地租及地附附加稅ハ一方ニ於キマシテ不動マスト云フコトハ御述ノ通リテ、此ノ點モ考慮ニ入レタノデアリマス、地租、地附附加稅ハ一方ニ於キマシテ不動課稅ニナリマシテモ、其ノ經費トシテ差引クコトデモアリマスルカラ、稅率ニ於テハ此ノ百分ノ一定程度ニサシテ差支ナイト、斯ウ云フ風ニ考ヘタノデアリマス

○三浦新七君 チヨツトウツカリンシテ居リシタガ、地租其ノ他ノ附加稅ト云フモノハ

経費トシテ引去ルト云フコトガアルノデゴザイマスカ

○政府委員(松隈秀雄君) 不動産所得ノ計算ニ當リマシテハ、納メマシタ地租及其ノ附加稅ハ經費トシテ差引イテ居リマス

○三浦新七君 ソレカラ普通ノ場合ノ營業稅ノ場合モ矢張リサウ云フ風ナ稅金ヲ引イテ居ルノデアリマスカ

○政府委員(松隈秀雄君) 營業稅ヲ課シマスル場合ニ營業純益ノ計算ニ當リマシテハ、營業用土地ノ地租ヲ引イテ居リマス、尙營業用家屋ノ家屋稅モ營業純益ヲ計算スル際ニ引クコトニ相成ツテ居リマス

○男爵大森佳一君 簡單ニ伺ヒマスガ、今回ノ稅法改正ニ付キマシテ必要トスル徵稅算ハドノ位ニナツテ居リマスルカ、ソレヲ承認タク、ソレカラ納稅ノ成績、ゴザイマスガ、大藏大臣ノ御説明ニ依リマスト、納稅費ノ方ノ側ノ人件費ナリ、物件費ナリノ豫算ハドノ位ニナツテ居リマスルカ、ソレヲ承認タク、ソレカラ納稅ノ成績、ゴザイマス、是ハマア當然ノコトデアリマス、時節柄然ルベキコトデアリマシテ、無論私共モサウ云フ風ニ恵ツテ居リマスルガ、是ハ又其ノ裏面ノ狀況カラ見テ個々ノ場合、又業態別トカ、人々個々ノ事情ニ付テ考へマスト云フコトハ御述ノ通リテアリマシテ、此ノ點モ考慮ニ入レタノデアリマス、地租、地附附加稅ハ一方ニ於キマシテ不動課稅ニナリマシテモ、其ノ經費トシテ差引クコトデモアリマスルカラ、稅率ニ於テハ此ノ百分ノ一定程度ニサシテ差支ナイト、斯ウ云フ風ニ考ヘタノデアリマス

○三浦新七君 チヨツトウツカリンシテ居リシタガ、地租其ノ他ノ附加稅ト云フモノハ

今回ノ改正ニ關シマシテハ相當注意スベ

キ事實ガアリハセヌカトモ思ヒマス、一般ノ傾向トシテ納稅ノ成績が良好デアルト云フコトハ、是ハ勿論ノコトデアリマスガ、老

婆心カラ申スヤウナコトデアルカモ知レマセヌガ、サウ云フヤウナコトハナカッタラウカト云フコトヲ参考ニ承リタイ、若シ機密ニ關スルコトデアリマスレバ、ソレハ速記ヲ止メテ承ツテモ宜シウゴザイマス、幸ニシテソンナヤウナコトハナイト云フコトデアリマスレバ結構デアリマス、又一面私共ノ参考ト致シマシテ、一般ノ納稅ノ状況ニ付テ業種別ナリ、或ハ稅種別ナリ、或ハ地方別ナリ、サウ云フヤウナコトヲ考ヘマスカラ承リタイト思ヒマス、ソレハ後デ御調トシテ頂戴シテモ宜シウゴザイマス

○政府委員(松隈秀雄君) 今回ノ増稅等ニ關聯致シマシテ増加致シマス經費、竝ニ人員デゴザイマスガ、金額ト致シマシテハ交付金ノ増加致シマスモノ迄含メマシテ六百萬圓餘ニナツテ居リマス、人員ト致シマシテハ約九百名程増スコトニ豫算上要求致シテゴザイマス、次ニ納稅成績ガ戰時下ニ於テ極メテ優良デアリマスルコトハ御話ノ通りデアリマシテ、誠ニ心強ク感ズルノデゴザイマス、從來大都市等ニ於キマシテハ、ナカナカ完納ト云フヤウナ成績ハ舉ゲニクカツタノデアリマスルガ、最近ニ於キマシテハ大都市ニ於テモ、區ニ依ツテ諸稅完納ト云フヤウナ成績ヲ現シテ參ツテ居ル所モゴザイマス、是ハ納稅者ノ戰費負擔ト云フ愛國心ノシタガ、地租其ノ他ノ附加稅ト云フモノハ

事務ニ與ツテ居リマス者ノ獻身的努力ノ現レデアルト思フテ居リマス、尙昭和十五年ノ稅制改正ニ依リマシテ一部源泉徵收ノ途

ノ開キマシタ其ノ部分ガ相當多數ニ上ツテ居リマスノデ、是ガ納稅ヲ大分シ易クサセ

居リマスカ、個人の部分ガ相當多數ニ上ツテ居リマスノデ、是ガ納稅ヲ大分シ易クサセ

○委員長(伯爵樺山愛輔君) モウ別ニ御質  
問モナイヤウデアリマスカラ、今日ハ是デ  
散會致シマシテ、次ハ月曜日ノ午前十時半  
カラ開會致シマス

午前十一時五十九分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵樺山 愛輔君  
副委員長 男爵松岡 均平君  
委員

公爵島津 忠重君  
侯爵大隈 信常君  
侯爵井上 三郎君

關屋貞三郎君  
子爵野村 益三君  
子爵大河内 輝耕君  
子爵西尾 忠方君  
子爵綾小路 護君

中川 健藏君  
平塚 廣義君  
吉田 茂君  
内田 重成君

三浦 新七君  
柴田 善三郎君  
男爵大森 佳一君  
男爵中御門 経民君  
野村 德七君  
堀 啓次郎君  
下出 民義君  
中島徳太郎君  
男爵古市 六三君

大藏次官 谷口 恒二君  
大藏省主税局長 松隈 秀雄君  
大藏書記官 深澤 家治君  
同 池田 勇人君  
平田敬一郎君

同

池田

勇人君

平田敬一郎君

政府委員  
内務省地方局長 成田 一郎君  
内務書記官 小林 千秋君

昭和十七年一月八日印刷

昭和十七年一月九日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局